

船舶事故等調査報告書

平成22年5月27日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009広第266号	
事故等種類	衝突	
発生日時	平成21年10月2日 00時45分ごろ	
発生場所	広島県福山市 走港 ^{ほしりこうづつもと} 浦友新防波堤灯台から真方位203° 5.4海里付近（概位 北緯34° 15.3′ 東経133° 23.7′）	
事故等調査の経過	平成21年10月2日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者からの意見聴取を行った。	
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 貨物船 第八星 ^{せいすい} 水丸、493トン 132302、沖本汽船株式会社 B 貨物船 第十一進 ^{しんぽう} 宝丸、212トン 140159、有限会社讃光海運	
乗組員等に関する情報	A 船長、五級海技士（航海） A 一等航海士、四級海技士（航海） B 船長、五級海技士（航海） B 二等航海士、四級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	A 右舷船尾外板に擦過傷、右舷船尾手摺に曲損 B 左舷船首外板にき裂	
事故等の経過	A船は、船長A、一等航海士Aほか3人が乗り組み、備後灘を南東進中、B船は、船長B、二等航海士Bほか2人が乗り組み、南西進中、平成21年10月2日00時45分ごろ、A船の右舷船尾部とB船の左舷船首部とが衝突した。	
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北東、風力 3、視界 良好 海象：海上 平穏	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし A船は、備後灘を南東進中、一等航海士AがB船他2隻を視認したのち、他の2隻が右転してA船を避航したので、B船も避航するものと思ひこみ、右転するなどの避航動作をとらなかったものと考えられる。 B船は、二等航海士Bが右舷方の適切な見張りを行っていなかったため、A船に気付かずに航行したものと考えられる。
原因	本事故は、夜間、備後灘において、A船が南東進中、B船が南西進中、一等航海士Aが、B船が避航するものと思ひ込み、右転するなどしてB船を避航しないで航行し、また、二等航海士Bが右舷方の見張りを行わなかったため、A船に気付かずに航行し、両船が衝突したことにより発生した	

ものと考えられる。